

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1（特別支援学校）

学校名	佐賀県立金立特別支援学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・重点取組に対しての成果指標はほぼ達成できており、各項目に対しての評価は「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」だけがB評価で、それ以外はすべてA評価となった。 ・本校は障害の程度が重い児童生徒が多く在籍しており、教職員一人一人の専門性をどのように高めていかは、今後も学校としての大きな課題である。 ・交流及び共同学習や校外学習、就業・施設体験等の学びを深めることができるように、引き続き取り組んでいく必要がある。 ・時間外在校時間の削減を一層図るとともに、その成果が職員のメンタルヘルスに良い影響を及ぼすことを目標としていく。
------------------	--

2 学校教育目標	☐ 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実践する。 ☐ 児童生徒が、「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	「つなぐれ未来 ― 明るく、正しく、たくましく ―」 ①児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた教育を充実させる。 ②自立と社会参加に向けて、児童生徒の夢や希望を大切にすることを教育を充実させる。 ③健康・安全教育を進めるとともに、思いやりや豊かな心を育む教育を充実させる。
------------	---

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握を行い、学習指導要領の各教科等の内容を踏まえた学習内容や目標を設定し、学力の定着につながる授業ができた と回答する職員が75%以上	・児童生徒に関わる複数の職員で客観的な実態把握を行う。 ・学習指導要領に示された各教科の内容を踏まえた学習内容・目標を設定して個別の指導計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 ・評価に基づいて、学習グループでPDCAサイクルにより授業を見直し、授業改善につなげる。 ・個人懇談や面談時に学習の内容や児童生徒の成長や様子について、説明を行う。	A	保護者の評価では98.3%が、学校は学力や生活習慣の定着に努めているという中間評価が出ている。今後も学習内容や学校での様子を説明していく。 職員の評価では91.7%が学力の定着につながる授業ができたという中間評価が出ているので、目標は達成できた。今後も前期の経過を学習グループ等で検討し、授業改善につなげていく。	A	・職員94%保護者97%と数値目標は達成できた。 ・ケース会では、改善した指導支援の手立てを取ることができ、担任団や授業に係る複数の職員により児童生徒がどのように成長したのか、その姿について話し合い、児童生徒個々の学力の定着や学習の幅の広がりを確認した。校内研究でも指導と評価の一体化を目指し、児童生徒に適切な評価の指針や根拠を示したり、評価を基に授業改善に取り組んだことよって、児童生徒の学びの深まりにつながった。 ・個人懇談や、本校会では連絡帳や保護者送迎時に、分校会では授業参観時等に、保護者に対して児童生徒の成長や学びの姿を伝えている。	A	・職員・保護者ともに95%以上が達成できたので高く評価できる。 ・児童生徒の実態が様々なので、個別性の高い教育になると思うが、目標を達成できていて評価できる。 ・今後も日頃からの保護者との情報共有を継続していただきたい。 ・時間を効率的に使用されて個々に応じた、きめ細かい取り組みをされていると感じる。	教務部
	○個々の児童生徒の実態に合わせたICT活用教育の充実	○アンケート調査でICT機器を活用し、効果的な授業の促進ができた と回答する職員、保護者が85%以上	・児童生徒の実態に合わせて、ICT活用を推進する。	A	・職員の評価では96.2%、保護者の評価では96.6%がICT機器の活用で効果的な授業ができていますという中間評価が出ている。今後もICT機器の活用を推進していきたい。	A	・職員の評価では96.2%、保護者の評価では98.4%がICT機器の活用で効果的な授業ができていますという最終評価が出た。ICTの活用が目的ではなく、手段として児童生徒の学力向上につながるような授業を推進していきたい。	A	・昨年の項目の内容と若干の違いがあるが、職員評価が8.8%下がっている。目標を達成したということで評価している。 ・効果的なICTの活用ができていて感じる。今後も児童の習熟度などに合わせたICTの活用をしていたらと思う。また、ICTの活用で職員の負担減にもなればよいと感じる。 ・今後も効果的な活用法の研究が必要。	学習・情報部
	○児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた進路指導の充実	○進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされている と回答する保護者が75%以上	・教職員を対象とした進路指導研修会や保護者を対象とした進路説明会を行う。 ・個に応じた資料を必要に応じて作成し、職員、保護者へ提供する。	A	・進路研修会や説明会を行い、事後アンケートでは「参考になった」との回答が100%であった。今後も研修内容について検討を重ねていきたい。 ・保護者評価では94.8%が適切な指導を行っている と回答されているが、下期は保護者の不安が高まっているので、丁寧に個に応じた進路指導を行っていく。	A	・保護者評価では95.0%、職員評価では90.6%が適切な支援・指導を行っている と回答した。 ・特に高等部では、教育機関を卒業する生徒・保護者に寄り添い、丁寧に進路指導を行った結果、希望の進路先を決定することができた。移行支援会議で卒業後の関係機関との連携を図り、スムーズな移行に取り組んでいる ・本人・保護者が、将来の希望を見付けることができるように進路指導に取り組んでいた。	A	・個別のニーズに対して適切に対応されていることがうかがえる。 ・丁寧に進路指導が行われていると感じる。成人期への移行は様々なサービスの切れ目となるため、今後も寄り添った対応をお願いしたい。 ・これからも、生徒・保護者に寄り添い、ていねいに進路指導に取り組んでいただきたい。	進路指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができて いると回答する職員が80%以上	・児童生徒の呼称等、児童生徒への職員の言動に関する意識向上を図るため、教務部・生徒指導部で連携し、アンケート調査を行う。(教務部・生徒指導部) ・児童生徒会活動の一環として、嬉しかったことや友達の良い所をカードに書き出し、「えがおの木」に貼り付ける活動を行う。(生徒指導部)	A	・職員の評価では95.6%、保護者の評価では96.7%と心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができている。 ・職員の人権意識については、アンケートを実施したこと「今後も学年相応の呼び方を職員間で心がけていきたい」と思いますなどの回答を得ることができ、自分自身を見つめるきっかけとなっている。	A	・職員の評価では94.5%、保護者の評価では96.7%が児童生徒の豊かな心を育むことや、自他の生命を尊重する教育に取り組むことができて いると回答した。今後とも意識的なアンケート調査を行い、意識向上につなげていきたい。また、「えがおの木」に継続的に取り組むと、豊かな心を育むようしていきたい。	A	・十分に達成していると感じる。今後もアンケートを継続し、評価をしていただきたい。「さん」付けで呼ばれることに児童生徒がどう感じているかは気になる。 ・自尊感情を高めるとともに、他人に対する思いやりや心の高めていくことについて、様々な取り組みがあり評価として高い。 ・共生社会の形成に向けて多様な学びの場がとても必要な気がする。	教務部 (人権・同和教育担当) 生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について、取り組むことができて いると回答する職員が80%以上	・学校生活調査を毎月行う。 ・いじめアンケートを年間2回実施し、教職員間で情報共有する。 ・児童生徒会役員会で、毎回、児童生徒一人一人が頑張っていることを取り上げ、互いのことを尊重し、認め合う雰囲気を作っていく。 ・いじめに対する教職員の意識啓発のため、研修、会議を年間1回以上行う。	A	・職員の評価では98.5%、保護者の評価では100%といじめ防止等に取り組むことができている。 ・いじめアンケート(学校生活アンケート)を実施し、いじめの未然防止に向けた取り組みも実施している。 ・覚知後に管理職を含め話し合いをすることで早期発見や早期対応に取り組めている。	A	・職員の評価では96.1%、保護者の評価では100%がいじめ防止等に取り組むことができて いると回答している。 ・学校生活調査を毎月行ったり、いじめアンケートを実施したことで情報共有を図ることができ、早期発見に努めることができた。 いじめに対する研修も実施することができ、教職員の意識向上にもつながっている。また今年は、覚知事案が発生したが担任をはじめ連携を取ることができたので3か月後の経過観察でも解消が見られた。	A	・日頃からいじめがない雰囲気づくりが必要であると 感じる。 ・十分に達成していると感じる。覚知事案で早期に対応できたのは非常に良かったと思う。 ・いじめだけでなく、相手に不快な思いをさせないなど、人との接し方を日頃から教えていくことが大切。スマホを持っている児童生徒も多いと思う。SNSのリテラシーについても指導してほしい。	生徒指導部
	●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒75%以上 ●◎「将来の夢や目標、生活していく上での楽しみをもっている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・授業等の中で児童生徒のよいところを評価する場面を設定したり、成果を披露する場を設けたりする。 ・将来の夢や目標、楽しみに繋がるような授業内容を工夫し、児童生徒の好きなこと、得意なことが増えるように授業づくりを進める。	A	・児童生徒のよいところを評価する場面を設定し、児童生徒が「先生はよいところを認めてくれている」と感じる授業をしていると回答した保護者が98.3%だった。肯定的な評価をしていることが伝わる授業が工夫できたと考ええる。 ・児童生徒が好きなこと、得意なことが増えるように授業づくりを進めており、児童生徒は「夢や目標、生活していく上での楽しみをもっている」と回答した保護者が98.3%だった。さらに授業改善をしながら授業づくりを進めていきたい。	A	・よいところを大いにほめ評価することを、より意識した授業づくりを行ったことで、児童生徒が「先生はよいところを認めてくれている」と感じる授業をしていると肯定的な回答をした保護者が98.4%と微増した。 ・児童生徒の興味・関心に合わせて、もっている力を最大限に活かすことができる授業、好きなこと得意なことが増えるような授業づくりに努めた。児童生徒は「夢や目標、生活していく上での楽しみをもっている」と回答した保護者が98.4%だった。	A	・十分に達成していると感じる。今後も児童のもつ強みを活かした教育をお願いしたい。本校の生徒と会うことがあるが、今後どういったことをしていきたいか、夢等をはっきりと答えられる印象を受けた。学校での指導の質が向上したと思う。 ・児童生徒は夢や目標、楽しみをもっているようで、意欲的に活動できていると思う。 ・生徒の内面を引き出す様々な創意工夫があると思うが、具体的な効果的な手法がなく、少しあいまいに感じる。	自立活動部 研究部
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「児童生徒の歯と口の健康意識を向上させる取り組みができて いる」と回答する保護者、職員が75%以上	・歯科健診前アンケートを実施し、困りごとや受診状況を把握すること。 ・歯科健診時、結果と指導ポイントを確認し、治療が必要な児童生徒本人・保護者・職員に伝え、受診勧奨を行う。 ・定期健診の結果や日常の歯磨きの様子や状況などから口腔ケアの課題を把握し、課題に即した保健指導や巡回を各1回以上、学校歯科医や職員、家庭等と連携して行う。(歯磨き担任引継ぎカード作成など) ・保健だよりや掲示物に歯科保健指導に関する記事を掲載。(校内での歯磨き指導取り組みの工夫の紹介)	A	・「児童生徒の歯と口の健康意識を向上させる取組ができて いる」と回答した保護者が96.5%、教職員が96.7%で、前期で取り組んできた歯科保健指導を概ね評価してもらった。アンケート実施後に、歯科巡回を実施したり今後、歯科保健事業が計画されたりしている。口腔ケアの課題解決に向けて、保護者や教職員に、より有意義な情報を届けられるようにつなげていく。	A	・「児童生徒の歯と口の健康意識を向上させる取組ができて いる」と回答した保護者が96.6%、教職員が97.0%で、歯科巡回や歯科保健事業などの取組を評価してもらった。 ・口腔ケアの課題解決に向けて、学校歯科医や歯科衛生士と連携し、歯磨き時の気を付けるべき点を保護者や教職員に伝える「はみがきポイントアドバイス」が「はみがきカード」を作ったり、保健だよりで歯磨きの工夫について伝えたり、歯科に関する掲示をしたりして、有意義な情報を届けられるよう努めた。 ・歯科健診の結果と指導ポイントを丁寧に伝えたり、受診・治療の必要な児童生徒には、個別に保護者と話す時間をつくって、その必要性を伝えた。 ・引き続き、歯科保健指導に関する情報の収集、提供に努めて いきたい。	A	・高い評価を得ていると思う。口腔ケアは身体の健康にリンクするため、引き続き学校歯科医や歯科衛生士と連携していただきたい。 ・歯と口の健康意識が向上していると思う。個別指導は大切なと思うが、これからはもう少しお願いしたい。 ・日常的に衛生意識は継続的なアプローチが最も大切なところ。ここでも昨年と比較して、教職員がマイナース11%であった。(歯科巡回の直後に取ったアンケートが否かが関係しているのかもしれない)	保健部
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○巡回相談等におけるセンター的機能報告の文書案内や、校内研修及び公開研修等を実施し、専門性の向上につながった と回答する職員が80%以上	・校外支援として巡回相談の実施、電話相談や学校見学等の対応を行う。 ・校内支援として教育相談、他校務分掌との連携協力、他特別支援学校の巡回相談や専門家派遣を行い、教職員の専門性の向上を図る。 ・公開研修会の計画や案内をし、専門性向上のための理解啓発を図る。	A	・センター的機能の一つである巡回相談の実施及びその報告案内、研修等の実施で、専門性の向上につながったと回答した職員が90.6%だった。若い教員を中心に特別支援教育の最新の知識や支援方法を習得しようとする職員が増えている。しかし、一方で、十分達成と回答した職員は17%、おおむね達成と回答する職員が73%と、センター的機能のスキルを職員全体に十分に広げることへの課題がある。 ・校内支援としては、学部ごとに特別支援教育コーディネーターや主事を中心に相談、連携を図ることができた。	A	・学校は巡回相談等のセンター的機能報告や校内研修及び公開研修等を十分実施できたと回答した職員が90.2%だった。巡回相談件数は、R5年度34件、R6年度(1月初旬現在)27件の依頼を受けている。新規案件だけでなく、継続的に巡回相談を利用する学校も多い。巡回相談に出向かなくても、地域の保育園幼稚園小学校から電話での相談も受けている。学校として、センター的機能を実践している。一方で、巡回相談に対応できる職員の確保が課題である。センター的機能を担うための専門性の確保は職員個人によって、差が大きいのが現状である。 ・校内支援は、各学部主事や関係する校務分掌と連携協力することができた。	A	・地域福祉の向上には、センター的機能の役割の大きさを認識する。 ・学校としてセンター的機能を果たしていると思う。機能を維持するための人材、専門性の確保を継続的に行っていただきたい。 ・巡回相談のセンター的機能は十分に実施できている。今後も継続してほしい。	相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「定時退勤日の取り組み、また長期休業中の休暇取得によりフレッシュできた」について肯定的な回答をした職員が75%以上 ○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合4%以下 ○児童生徒下校後の勤務時間を集中して業務に当たることができたという職員の割合が75%以上	・行事の削減と簡素化、準備の効率化等に取り組む。 ・月1回の定時退勤日と月3回の定時退勤推進日について引き続き推奨・実施していく。 ・休暇を取得しやすいように、夏季休業中に7日間の学校閉庁日进行を設ける。 ・執務室(職員室)では、休憩時間後の業務開始時に15分間の無言集中タイムを設け、一人で集中して作業できる環境を作る。 ・会議・打合せは原則として60分以内に終了するよう、会議の主催者・参加者で意識を共有する。	B	・「定時退勤日の取組、また長期休業中の休暇取得によりフレッシュできた」について、肯定的な回答をした職員が87.6%であった。 ・月の時間外勤務が45時間以上の職員は一月平均11名(約7.1%)。後期は目標の達成を目指し、各学部で呼びかける。 ・「児童生徒下校後の勤務時間を集中して業務に当たることができた」について、肯定的な回答をした職員が92%であった。後期は15分間の無言集中タイムのさらなる徹底を図る。 ・会議・打合せについては80分以上かかることもあった。後期は会議の効率化を一層進める。	B	・「定時退勤日の取組、また長期休業中の休暇取得によりフレッシュできた」について、肯定的な回答をした職員が98.4%であった。 ・月の時間外勤務が45時間以上の職員は一月平均7.9名(約5.0%)。目標の4%以下には届かなかった。特定の業務を担う職員に負担が大きいことは否めない状況がある。 ・「児童生徒下校後の勤務時間を集中して業務に当たることができた」についての肯定的な回答が91.6%であった。 ・会議・打合せについてはまだ60分以上かかるっており、引き続き改善を図る必要がある。	B	・業務効率・改善が主となっているが、教職員の教科準備が実際にどうなのか。また、教職員のコミュニケーションが勤務時間内に図られており、報告・連絡・相談等、日々充実するようにお願いしたい。 ・時間外勤務について目標に届かなかったのは改善の必要がある。アンケートにもあるように職員の業務に偏りがあると思われるため、適正な分担などの改善が求められる。 ・仕事内容は減らすわけにはいかない。仕事の効率化に努め、時間外勤務を減らすことが必要。	管理職
●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										

5 総合評価・次年度への展望	・成果指標(数値目標)おほとんどの項目で達成しており、「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」だけがB評価で、それ以外はすべてA評価となった。 ・本校は障害の程度が非常に重い児童生徒が多く在籍しており、効果的なICTの活用と教職員の専門性を高めることについては、今後も学校としての課題である。 ・業務の効率化と時間外勤務の削減を一層図り、その成果が職員のメンタルヘルスに良い影響を及ぼすとともに、教育活動の根幹である授業準備が十分にできていると多くの職員が実感することを目標としていく。
----------------	--